明治学院大学

心理学部 付属研究所 通信

2021 March 第**13**号



所長挨拶

大学の重要な使命が教育と研究であることは言うまでもありません。本学の心理学部付属研究所は、相談・研究部門(心理臨床センター)と調査・研究部門の2つの部門から構成されております。調査・研究部門では、心理学に関する諸領域の調査・研究および所員が行う研究へのサポートを行っています。相談・研究部門は、学部生・大学院生のための実習機関としての教育的役割を果たすだけではなく、地域の皆様のための相談機関としての役割も担っております。加えて当研究所では、例年、専門分野に関する公開セミナーも開催しております。

本通信では、2020年度に当研究所の研究プロジェクトとして行われた研究について、概略をご紹介致します。本年度は3件の特別研究プロジェクトと、4件の萌芽研究プロジェクトが行われました。また、公開セミナーとして「心とことばが通じるしくみ―自閉症の人との係わりなどを通して―」も実施致しました。ご高覧頂ければ幸いです。

今後も、心理学を基盤として社会に対する貢献を積み重ねていくことができるよう、所員全員邁進したいと思います。ご鞭撻を頂ければ光栄に存じます。

心理学部付属研究所長 金沢 吉展



調查•研究部門報告

地域と密接に関連する諸課題について心理学的な調査・研究や教育発達学的な調査・ 研究を進める拠点として調査・研究部門が2020年度行った主な活動は次の通りです。 特別研究プロジェクト3件と萌芽研究プロジェクト4件に支援を行い、zoomを活用 した公開セミナーを開催しました。詳しい内容はこの通信に掲載されておりますので、 ご覧下さい。また、心理学部付属研究所年報14号の発刊を予定しております。

今年度は新型コロナウィルス感染症の広がりを受け、年間を通じて調査研究の進捗 を妨げております。来年度も新型コロナウィルス感染症の影響が予想されることか ら、緊急時における調査・研究の在り方を検討する必要があるかもしれません。

調査・研究部門主任 宮崎 眞



特別研究プロジェクト報告



障害児者心理学 緒方 明子 (教育発達学科教授)

小林 潤一郎(教育発達学科教授)、宮崎 宣 (教育発達学科教授) 〈フレンドシップ・プログラム〉川渕 竜也 〈幼児児童のアウトリーチによる発達支援

プログラム〉下平 弥牛

本研究所の障害児者を対象とした 地域貢献のあり方に関する探索的研究

本プロジェクトは、障害のある青年を対象とした 「余暇支援」、社会性に困難のある児童・青年を対 象とした「フレンドシップ・プログラム」、知的発 達の遅れはないが、学習につまずく児童生徒を対象 とした「学習支援プログラム」の3つのプログラム で構成されています。何れも対象者が心理臨床セン ターに来所し、個別あるいはグループで活動を行う

形式をとっています。しかし、今年度は4月から入 構禁止となり、何もできない状態が続きました。よ うやく9月からオンラインでフレンドシップ・プロ グラムと学習支援プログラムが開始されました。こ のような状況下だからこそ、オンラインでの支援の 可能性を実感することができ、今後の新たな支援方 法について考える機会としたいと思います。



比較・国際教育学 渋谷 恵 (教育発達学科教授)

緒方 明子(教育発達学科教授)、杉山 恵理 子(心理学科教授)、鞍馬 裕美(教育発達学 科准教授)、阿部 裕(心理学部名誉教授・研 究員), 食本 英彦 (研究員), 榊原 佐和子 (研 究員)、津田 友理香 (研究員)、田中 ネリ (研 究員)、構澤 直文(研究員)

心理学部におけるグローバル化 および内なる国際化に関する探索的研究

今年度は新型コロナウィルス感染症の感染拡大に 伴い、活動の多くをオンラインで行っている。昨年 からの継続テーマである「多文化こころの支援ネッ トワークづくり」「外国にルーツのある子どもたち と保護者の支援」「多文化ユース支援」「多文化に開 かれた社会教育研究」について、各研究員が研究・ 実践を行うとともに、定期的に研究・情報交換会を 行った。また発達に障害のある多文化児童生徒の支



援に関する横浜市教育委員会との連携、コロナ対応 に関する東京都生活文化局、CINGA (NPO法人国際 活動市民中心)との連携など、行政や関連団体との 連携も進んでいる。これらの成果を踏まえて、今後 は報告書や書籍の出版等を通して、発信に向けた活 動も行っていきたい。



認知行動療法

森本 浩志 (心理学科准教授)

野村 信威 (心理学科准教授)

認知症の人とそのご家族のための セルフケアプログラムの効果検討 ~認知症の人とその家族のこころを支える~



進むと生活の中で不便なことが増えるため、生活の 支援(介護)が必要になります。認知症の人の介護 は主に家族が行っていますが、認知症という病気に 起因する難しさなどから、認知症の人と家族の双方 がストレスを抱えこんでしまうことがあります。

このプログラムでは、認知症の人が認知症という 病気と共に自分らしく生活できるように回想法をベ ースとしたサポートを、また家族の方が認知症と共 に生きる家族と自分の双方を大切にした生活を送れ るように認知行動療法をベースとしたサポートを行 っています。

→ 萌芽研究プロジェクト報告



社会心理学 田中 知恵 (心理学科教授)

高林 久美子 (研究員)

感情共有が受け手の志向性と送り手の評価に及ぼす影響

近年、ジェンダーに関わりなく仕事と家事育児の 両立が求められるようになっている。しかし未婚女 性が専業主婦を理想のライフコースとして回答する 割合は1997年以降ほとんど変化していない。その 理由として、両立に対する負担感の認知や評価のさ れにくさ等が考えられる。

上記の点を実証的に検討するため、感情共有が受

け手の志向性ならびに送り手との結びつき認知に与 える影響について、親子間に関して子世代を対象と した調査(研究1)を実施した(n=400)。またカップ ル間のコミュニケーションに関して、仕事での成功 シナリオを用いた実験(研究2)を実施した(n=800)。 いずれの研究とも、現在得られたデータを分析中で



特別支援教育学 宮﨑 眞 (教育発達学科教授)

垣花 真一郎 (教育発達学科准教授) 菊池 護 (研究員)

自閉スペクトラム症の児童における 台本を利用した言語及び 会話指導のソフトウェアの普及化

我々は知的障害を有する自閉スペクトラム症の児 童を対象として、台本を利用した言語および会話の 指導を行ってきた。

この指導方法では、台本にカード形式が用いられ ることが多い。しかし、場面ごとにカードを作成す ることが必要となるため、準備が大変である。準備 作業の効率化を図るために、カード形式からタブレ ットを活用した形式への移行を進めており、タブレ



ット活用による有効性を確認している。

現在は、より多くの方々が利用できるように、 iPadなどのiOS端末に対応したアプリの開発を行っ ている。これにより、広く普及しているiOS端末に よる台本を利用した言語および会話の指導が"誰で も・いつでも・何処でも"可能な環境をつくること ができ、自閉スペクトラム症の児童の効果的な指導 へとつながると考えている。

教育経営学

鞍馬 裕美 (教育発達学科准教授)

朝倉 雅史 (研究員)

休職教員支援に関する 調查研究

本研究は、休職教員、特に精神疾患で休職に至っ た教員に焦点化し、休職前・休職中・職場復帰後の それぞれの局面における学校と行政による支援の実 態と課題を明らかにすることを目的に遂行した。背 景には、第一に、精神疾患による教員の休職が毎年 約5,000人 (全教職員の約0.5%) 前後で推移してい ること、第二に、休職には至らないまでも、90日 未満の休暇等を繰り返す教員が多数存在するなど、

国の統計結果を超えた欠員があること、第三に、休 職等による教員の欠員が主に非正規教員(臨時的任 用教員等)の任用や既存の教員で補充されるため、 正規教員の負担の増加とともに継続的な学級・学校 経営を困難にするなど、早急な改善が求められてい ること、以上が挙げられる。

本研究では、国および各自治体における教員のメ ンタルヘルス政策の動向を分析するとともに、主に、 東京都と神奈川県の学校管理職者および教育委員会 関係者へのインタビュー調査を実施してきた。学校 管理職については、小・中・一貫校をそれぞれ選び、 学校段階ごとの支援の実態と課題の特徴を精査した。



手塚 千尋 (教育発達学科専任講師)

水戸 博道 (教育発達学科教授)、辻 宏子 (教育発達学科教授)、杉山 雅俊(教育 発達学科助教)、江草 遼平(教育発達学 科助手)、畑山 未央(研究員)

初等教育における Art &Designを基盤とした STEAM コンテンツ開発のための 基礎研究

ポスト情報化社会とされる「Society 5.0」では、 新しい学びの方策として「STEAM教育(Science, Technology, Engineering, Art, Mathematicの各領 域を越境して成立する学習活動)」の有効性が提唱さ れています。前身にあたるSTEM教育に「A」が加わっ たSTEAM教育をどのように解釈し、実践化するのか は国際的なテーマです。本研究では、幼稚園及び小 学校におけるSTEAMコンテンツ開発に向けた基礎研 究として、日本の学校教育の文脈に沿ったSTEAM教 育の理論の検討に取り組みました。各領域には固有 の特色がありますが、問題解決時における思考プロ セスに注目すると「創造・想像」や「探究/探求」な どが共通しています。未分化に学ぶ幼児の姿をヒン トに、STEAM各領域の差異性(固有性)を尊重しな がら共通性を探ることを通し



て、教科の枠組みにとらわれ ないSTEAM教育の理論構築を めざしています。



相談・研究部門(心理臨床センター)

2020年度は、カウンセラー2人、アシスタントカウンセラー4人、教学補佐、受付、 専任教員という体制で、相談・研究部門(心理臨床センター)の運営を行ってきました。 面接は、カウンセラー、アシスタントカウンセラーに加えて、大学院生、スーパーバ イザーによって行われました。本年度は、新型コロナウィルス感染症の感染拡大に伴 う緊急事態宣言を踏まえて、2020年4月初旬から6月末日まで心理臨床センターを休 館しました。7月の開館後には、感染防止対策を行った上で、すでに本センターにお 申し込みをいただいている方を対象とした、オンライン面接、電話相談を新規にスタ ートさせました。その後、感染防止対策をさらに徹底して、すでにお申し込みいただ いている方の対面面接を10月から再開しました。今後も引き続き、感染防止対策を 万全にした上で、地域のニーズを把握し、利用者の皆さまに貢献できるよう、努力す る所存です。





相談:研究部門主任 伊藤 拓

2020年度心理臨床センター利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
初回面接		_	_	_	_	_	_	_	_	2	_	_	2
継続面接	(対面面接)	_	_	_	_	_	_	27	30	36	25	5	123
	(オンライン面接)	_	_	_	40	59	67	69	63	40	55	17	410
	(電話面接)	_	_	_	18	13	12	16	9	9	9	4	90
心理検査		_	_	_	_	_	_	_	_	7	_	_	7
合 計		_	_	_	58	72	79	112	102	94	89	26	632

※2021年2月9日現在



公開セミナー報告

2020年10月10日(土) 開催

特別支援教育学 宮崎 眞(教育発達学科教授)



今年度は福井大学名誉教授 熊谷高幸先生をお迎えし、ご講演をいただき ました(演題「心とことばが通じるしくみー自閉症の人との係わりなどを 通して‐」)。新型コロナウィルス感染症のためzoomを活用した講演会と なり、熊谷先生には福井県のご自宅からご講演をいただき、参加者は北は 北海道から南は九州まで全国から87名の方にお集まりいただくことがで きました。講演者と参加者の直接的な交流はなかったものの、活気を感じ る講演会となりました。ご講演は自閉症児者に関する様々な発達心理学的 知見に基づいた大変示唆に富むものでした。参加者の感想を一つだけご紹 介します。

"共同注意という大変重要な視点から、分かりやすくご講義いただきま して、ありがとうございました。共同注意という仕組みについて学ぶのは 初めての機会でしたが、これはすべての人間に共通する大切な仕組みであ ることが、とても良く分かりました。分かりやすい図が、理解をさらに助 けてくれました。どうもありがとうございました。"



明治学院大学心理臨床センター

予約電話 03-5421-5444

受付時間 火~土曜日 午前10時~午後5時30分

あなたのこころ

学校、対人関係、性格、 子育ての悩み…お気軽にご相談ください。

ΗP

http://psy.meijigakuin.ac.jp/clinic/

※ホームページからご相談の予約はできません。お電話のみの受付となります。